

2015 年度湘南藤沢学会「研究助成基金」成果報告書

HI シンポジウム 2015

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修士 1 年 宮坂航亮

1. 活動日程・会場

平成 27 年 9 月 1 日-4 日に、北海道函館市公立ほこだて未来大学にて、ヒューマンインタフェース 2015 が開催され、それに参加した。

(<https://www.his.gr.jp/sympo/his2015.html>)

2. 活動の目的

プレイス&モバイルメディアプロジェクトにて、街の情報をその街にいる人に音声で提供するスマホアプリ「Social Networking Radio (SNR)」を開発した。おすすめのお店や眺めの良い公園など、地域性の高い情報を音声で紹介することで、街歩きやドライブをより楽しくすることができるのではないかと考えた。2015 年春学期に実施した 2 週間の SNR の実験では、145 名のユーザーが SNR を使用し、既存の IT サービスとは異なる、街を介して人々がつながる「楽しさ」を感じたという意見を得ることができた。この SNR のコンセプト、システム構成並びに実験結果を、函館で行われるヒューマンインタフェース学会にて発表した。

「状況依存のデザイン志向」という学会のコンセプトに募るさまざまな分野の研究者の前で SNR を発表し意見交換をすることで、SNR のさらなる進歩を目指すのが本活動の目的であった。またヒューマンインタフェース学会では「楽しさ」の様に、人間の感性を尺度とする評価手法も発表されるため、他の研究者の発表から刺激を受けることで、今後の SNR 研究活動の実験方法に感性評価手法を活用することも目的とした。

3. 活動の成果

多くの研究者からさまざまな意見を得る事ができた。その中から、SNR の改善として重要視した 3 つを活動の成果として報告する。

① SNR の速度抽出プログラムの必要性

SNR は特定の情報投稿者が投稿した場所性のある情報を、自動音声合成で音声ファイルに変換し、ユーザーがある場所に近づいた時に自動

再生されるアプリケーションである。例えば、慶應大学から湘南台駅区間に音声再生場所を設置し、ユーザーがその付近に近づくと、藤沢市に関連した情報が自動的に再生される。音声再生場所ごと情報提供者が決まっており、情報提供者がテキストで入力した情報がサーバー上で自動的に音声に変換されるシステムとなっている。このシステムに対して自動車関連の研究をしている研究者は、ユーザーの速度に応じてコンテンツの再生方法を変更しているプログラムが必要である、と述べていた。つまり現在の SNR の一定距離に近づくと再生される、というプログラムでは、渋滞や高速などユーザーの様々な状況に応じてコンテンツを再生することが難しい。したがって、ユーザーの速度を抽出し、それからユーザーが心地よいと感じる再生方法を自動的に決定するプログラムの必要性に気づく事ができた。

② 地域活性化×SNR

SNR で投稿される情報は特定のユーザーのものだが、これを地方の商店街の店長に使用してもらうことで、新しい商店街の広告の形ができないかという意見があった。商店街をふらふら歩きながら、その街のおもしろい情報やお店のお買い得情報などが聴こえることで、SNR ユーザーの街に対する意識を少し面白い方向へシフトさせることができるのではないかと考えられた。

③ 各ローカルメディア局との連携研究

研究発表を聞いていた札幌の企業の方が SNR に対して興味を抱いてくれて、是非とも連携して研究したいという話になった。その内容としては、各地方のローカルメディア局と連携し、街にフォーカスを当てたおもしろい情報を発信しようという研究である。ローカルメディア局とは、例えば札幌にあるミニ FM 局や葉山にある湘南ビーチ FM がそれにあたる。これらのメディアはラジオであり、視聴者数が減少している衰退メディアである。この衰退しているメディアの起爆剤として SNR が使えるのではないかと考えられた。今後の連携研究が楽しみである。

4. 謝辞

本シンポジウムの参加にあたり、資金面でのご支援をいただいた湘南藤沢学会様に厚く御礼申し上げます。